

平成16年12月21日公表

## 平成16年繭生産統計 (調査県)

### 【調査結果の概要】

掃立卵量は2万600箱で、前年に比べて2,800箱(12%)減少し、収繭量は664.5tで、前年に比べて100.5t(13%)減少した。

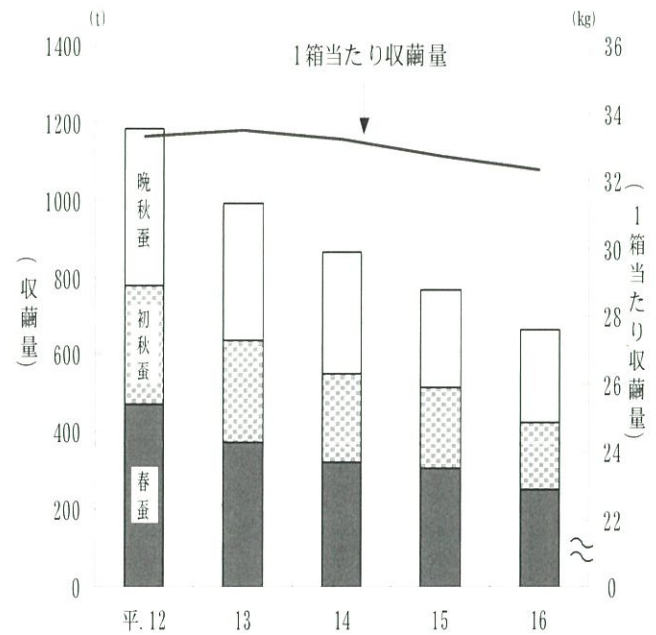
- (1) 掃立卵量を蚕期別にみると、春蚕は7,100箱、初秋蚕は5,600箱、晩秋蚕は7,900箱で、前年に比べてそれぞれ1,600箱(18%)、700箱(12%)、400箱(5%)減少した。

これは、蚕期を通した労働力不足等のほか、春蚕が凍霜害により桑不足となったためである。

- (2) 収繭量を蚕期別にみると、春蚕は250.5t、初秋蚕は174.6t、晩秋蚕は239.4tで、前年に比べてそれぞれ55.9t(18%)、34.9t(17%)、9.8t(4%)減少した。

これは、蚕期を通した掃立卵量の減少のほか、初秋蚕が夏期の猛暑により、繭が小粒になったことや膿病等が発生したことから1箱当たり収繭量が減少したためである。

収繭量 (調査県)



掃立卵量及び収繭量 (調査県)

単位 { 掃立卵量 : 100箱  
収繭量 : t  
対前年比 : %

蚕期	掃立卵量	収繭量	1箱当たり収繭量	対前年比		
				掃立卵量	収繭量	1箱当たり収繭量
年間計	206	664.5	32.3	88	87	99
春蚕	71	250.5	35.2	82	82	100
初秋蚕	56	174.6	31.3	88	83	95
晩秋蚕	79	239.4	30.4	95	96	101